

2020年12月度のトピックス

12月21日

先輩チームからユニフォームカラーのマスク



500歳野球チームから、日頃、お世話になっているお礼に、ユニフォームカラーの特注マスクが届いた。メンバーの一人の中学時代の同級生が繊維機械の会社を営んでおられ、地域貢献にとコロナ渦のマスク不足の中、地域貢献のためにはじめられたマスク製造が、SNSで広がったとか。ユニフォームのカラーをイメージしたマスクは、1.2年生全員分、スタッフ分。

試合のために練習場を空けてもらったり、準備をして貰ったりとお世話になっているからと、代表OBがグラウンドまで届けて下さった。

12月7日

立命館宇治OBクラブの連盟参加が承認



500歳野球に向けたチームを結成した「立命館宇治OBクラブ」が、6日連盟の会議で承認され、正式加盟となった。湯川代表と岡本事務局が会議に参加し、同じく新規加盟の須知高校とともに、歓迎の承認だったとのこと。

来年2月には春季大会に向けた総会が行われ、監督会議、抽選会も行われる。現在、練習試合では連敗中だが、「このままでは勝てない」と練習日も設定された。恩師の円山元監督や古家元監督からも熱いエールが届いており、春の公式戦までにチーム力を向上させたい。

2020年11月度のトピックス

11月29日

どうした??先輩たち 500歳野球、連続完封負け

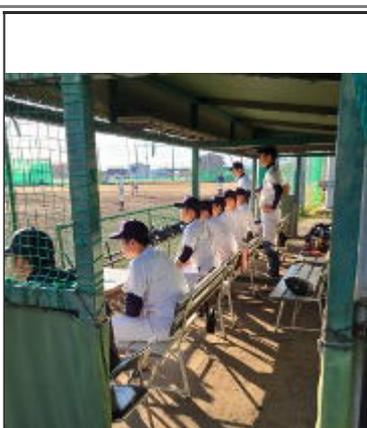


現役がテスト休みの週末を利用して、500歳野球・立命館宇治OBクラブが、桃山金城クラブと練習試合を行った。全員新しいユニフォームを身にまとい、「前回の嵯峨野クラブとの試合みたいな結果だと、どこも相手にしてもらえなくなる」と意気込んだが、結果は序盤から防戦一方で、0-12と前回に続き、完封負けとなった。

さすがにこの結果には深刻なようで、「練習しなくては勝てない」と早速現場に練習場提供の依頼があり、里井監督も快諾した。次は半ば休部状態の「京都府警OB」との練習試合。三度目の正直に期待したい。

11月14日

望まれる「澆刺さ」、残り少ない練習試合

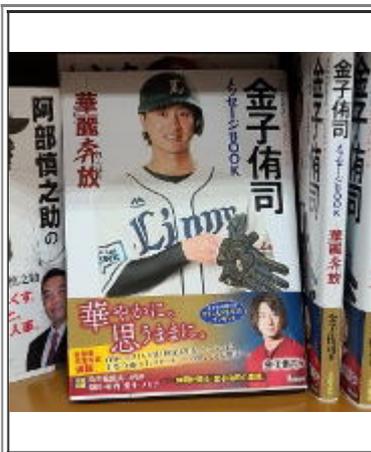


洛南交流試合も終わり、今週末と来週末で練習試合も終わり、アウトオブシーズンへと突入する。毎週土日にABと2チームに分かれて練習試合を行っているが、どうも澆刺さを感じられない。この時期に出てきて欲しい新戦力もなかなか見当たらない。秋季大会以降、コンバートも行い、試合ごとにABのメンバーの入れ替えを行っているが、「それなりに淡々と」流れる試合が多い。里井監督をはじめ、スタッフも「今は我慢の時」としながらも、このまま練習試合を終えて、希望に満ちて来春のゲーム再開を待てるのか。来春の新生のみが楽しみではあまりにも寂しい。

2020年10月度のトピックス

10月29日

埼玉西武ライオンズ・金子侑司OBの本



パリーグで2度の盗塁王に輝き、今シーズンも途中から1番・センターでレギュラーとして活躍する金子侑司OBに関するフォトブックが出版されている。

写真が主であるが、高校時代の思い出も語られており、「丸坊主にしなくても良いと思って立命館宇治を選び、初日に先輩に怒られ、一日で退部しようと思った」などのエピソードが書かれており、恩師・伊瀧監督にはよく怒られたなど、関係者にとっては興味あるページもある。

高校時代からプロを意識していた彼の知られざる一面が読み取れる。

10月27日

関西学生野球秋季リーグでベストナイン選出



関西学生野球秋季リーグで、本校OBで立命館大学4回生の森田皓介がベストナインに選出された。4年前のOBで元主将であり、第87回選抜高等学校野球大会では、下級生ながら1番・遊撃手の重責を担った。

大学では外野手への転向や、度重なる病気や怪我のために、なかなかレギュラーに定着できなかったが、最終シーズンで見事に努力が開花した。

最終節の立同戦では、打率3位につけており、解説者として観戦した里井監督をはじめ、スタッフも1打席ごとの結果が気になっていたが、高校にとっては朗報となった。

10月25日

練習試合、強豪相手にダブルで完敗



新チーム以降、行動制限のため、なかなか思うような相手と練習試合が組めない状況が続いていたが、この日は大阪の強豪・近大付属の胸を借りた。大阪には大阪桐蔭、履正社の二強の存在があるが、近大付属は100回大会で南大阪代表になるなど、大阪府内では屈指の存在。

どこまで食い下がるか注目されたが、1試合目は1-11と完敗。2試合目は終盤にリリーフした投手から何とか得点したが、4-7とダブルで完敗した。

それでも秋季大会では大阪桐蔭に0-10で敗れたとか。この敗戦から何を感じて、ステップアップする

のか。「大阪でなくて良かった」では、チームは成長しない。

10月18日

晩秋の恒例、洛南交流試合が始まる



中間テストも終わり、練習が14日より再開し、晩秋の恒例「洛南交流試合」が始まった。今年も2チームに分けての参加であるが、例年のようにAチーム=2年生、Bチーム=1年生という学年別チーム編成は行わず、随時メンバーが入れ替わる。

秋季大会ではメンバー外であった選手が、この交流試合での活躍が認められ、一気にレギュラーを獲得した例もある。今年はスタッフが増えたこともあり、例年より多いB戦が組まれているが、来春には30名を越える新入生を迎えることになり、チャンスはいつまでも降ってこない。

[硬式野球部 TOP PAGEへ](#)

2020年9月度のトピックス

2020年度 秋季京都府高等学校野球大会 速報

9月21日

500歳野球加盟へ、OBチーム結成の動き



京都独特の野球文化に「500歳野球」がある。各高校のOBチームで、試合出場9名の合計年齢が常に500歳以上であること、投手は55歳以上であることなど様々なルールがあるが、加盟チームは30を越え、連盟結成30周年を越える。

この連盟に「立命館宇治OBクラブ」が来春の参加を目指して、動き出している。発起人は石川顧問で、昨夏の応援のお礼にと事務局を買って出た。10月11日に初会合と練習試合があるが、そこへ向けて往年の名プレーヤーが集まり、練習を開始している。この日は短時間ながら8名のOBが、現役選手の練習空き場所を見つけて、汗を流した。

9月18日

2次戦を前に、校長・副校長が激励に



放課後に夕立に見舞われ、ぬかるむグラウンドでの練習となったが、Hicks校長と越智副校長が三室戸グラウンドに激励に来て下さった。

寮訪問の前に、グラウンドにお越しになり、メンバーを前に、お二人からエールを頂いた。Hicks校長は夏の初戦を太陽が丘でご覧になり、「うちのディフェンスは素晴らしい。次の試合も頑張ってください」と熱く語り、乙訓高校の校長時代に選抜大会の一報を受けた経験のある越智副校長は、「立命館との兄弟校対決を制して」と、激励して下さいました。

9月12日

秋季大会1次戦会場、「無観客」で実施



12日（土）、三室戸グラウンドで行われた1次戦ブロック決勝は、昨年の春季大会以来、1年半ぶりの公式戦会場となった。従来の大会とは異なり、今大会は「無観客試合」となったため、役割分担も増えた。「誘導係」、試合前後の「消毒係」など、このコロナ渦ならではの分担もあり、控え部員は前もって決められた役割をテキパキとこなした。

また投手の球数制限のため、公式記録員も今までより細かい数字の算出を求められた。

[硬式野球部 TOP PAGEへ](#)

令和2年度

秋季京都府高等学校野球大会 速報

2次戦

4月27日(日) 準々決勝 対東山 わかさスタジアム

下位が好機作るも、上位が機能せず

● 立命館宇治 000 000 010=1

○ 東 山 000 001 20x=3

【立】白田-生田

【東】橋本-原

▼2塁打 白田(立) 牧原、奥山、橋本

【寸評】

立ち上がりから「0」が並ぶ我慢比べの展開となったが、終盤に相手打線にタイムリーを許し、痛恨の取りこぼしとなった。

先発した白田は味方の攻撃を待ち、我慢の投球が続いたが、6回2死から連続2塁打で先制を許すと、7回にはまたも2死1.2塁から左越2塁打で加点された。

打線は4回、8回に2死満塁の好機があったが、タイムリーは代打田口のみ。相手を上回る9安打を放ったが、下位打線が6安打とチャンスメイクし、上位が3安打とタイムリー欠乏症となった。

立命館宇治=9安打、12残塁、東山=7安打、5残塁と、ここ一番でのタイムリーの差が、この結果を招いた。



写真は2安打を放った林(2年)

登録選手変更

背番号20

【新】 **星野 大和** 1年 吉良中(愛知) 愛知衣浦シニア

【旧】 岩間倫太郎

4月20日(日) 1回戦 対立命館 太陽が丘球場

中盤に緊迫の展開も、終盤に突き放す

○ 立命館宇治 203 200 210=10

● 立 命 館 000 500 000=5

【宇】白田-生田

【立】池田、畑昌、雀部-長谷川

▼本塁打 植村（宇）

▼2塁打 荻野、野寺（宇）北村（立）

【寸評】

2点差に迫れて緊迫した展開になりかけた7回、無死から失策の走者を送り、8番生田が三遊間へ貴重なタイムリーを放つと、1番野寺が左中間を割り、4点差とした。8回には先頭の4番植村が左越えへ本塁打を放ち、突き放した。

先発した白田は4回に6安打を集中され、一挙5点を献上した。しかし6回以降に再びエンジンを上げ、6～9回は全て三者凡退で退けた。4回以外は被安打3。四死球3ながら12奪三振であった。

試合は初回到野寺と3番三浦の安打で2死2.3。塁とし、5番荻野が左前へ2点タイムリーし、先制。3回には無死満塁から、荻野が右翼線に走者一掃の3点で加点し、4回には2死から三浦、植村、荻野、林の4連打で7-0と一方的展開になりかけていた。

終わってみれば立命館の3投手に長短15安打を浴びせたが、4回に立命館に与えたビッグイニングで緊迫した中盤となった。



写真は第1打席から3安打6打点の荻野(2年)

1次戦

4月9日(土) 決勝戦 対同志社 立命館宇治三室戸G

序盤制すも中盤以降、互角の展開に

○ 立命館宇治 030 100 000=4

● 同 志 社 000 000 020=2

【立】白田-生田

【同】末富-佐野

▼3塁打 津脇（立）、蔭山（同）

【寸評】

立命館宇治は序盤に4点リードしながらも、ゲームを支配しきれず、辛くも逃げ切った勝利となった。

2回1死2塁から8番・生田、9番・白田の連続安打、相手失策と、3番・三浦の三遊間で3点を先制し、4回にも2死から2番・津脇の左中間3塁打を失策で得点した。しかし5回以降は相手エースにわずか1安打1四球と出塁さえまなならなかった。

先発した白田は被安打5ながら、10四死球を与え、毎回のようにピンチを迎える苦しい投球が続いた。8回には先頭から連続四球のピンチから、犠打を自らの暴投で初失点した。



写真は3塁打を含む2安打の津脇(1年)

4月9日(土) 2回戦 対北稜 北稜高校G

3回6点、5回13点のビッグイニング

○ 立命館宇治 0 1 6 3 13=23

● 北 稜 0 0 0 0 0 =0

(5回コールド)

【立】白田-生田

【北】根田、横田、石野、横田-松原

▼本塁打 林(立) ▼3塁打 津脇(立)

▼2塁打 津脇、植村、林、生田(立) 桜井(北)

【寸評】

立命館宇治は2回2死1塁から、8番・生田の右翼線2塁打で先制すると、続く3回には2番・津脇、6番・林の2塁打など、打者一巡の攻撃で一挙6点と、試合を序盤から支配した。4回にも長短3安打で、3点を加えると、5回には林の満塁本塁打など16人攻撃で一挙13得点で決着した。

メンバー全員が初の公式戦で、不安材料もあったが、先の夏季大会でブロック優勝した北稜を12安打(12四死球)で圧倒した。

先発した白田は、被安打3、四死球0、48球で3塁を踏ませなかった。



写真は5回0封の白田(2年)

1次戦メンバー

背番号	守備	氏名	学年	出身中学	出身チーム
1	投	麿嶋 淳人	1	片桐 (奈良)	シニア 奈良中央
2	捕	橋本 晃	1	吹田二 (大阪)	ボーイズ 千里山
3	一	三浦 仁	2	柳川 (大阪)	シニア 北摂
4	二	藤本 皓成	2	南八下 (大阪)	ボーイズ 松原
5	三	野寺 快	2	精華西	ボーイズ 滋賀南郷
6	遊	津脇 大輔	1	登美ヶ丘 (奈良)	シニア 奈良
7	左	植村 博斗	2	松原六 (大阪)	ボーイズ 中百舌鳥
8	中	荻野 仁	2	南陵	ボーイズ 福知山
9	右	林 憲伸	1	精華西	シニア 奈良西
10	投	白田 晴宗	2	四條畷学園 (大阪)	シニア 東大阪
11	投	湯浅 祐	2	安祥寺	ボーイズ 京都洛中
12	捕	生田慶三郎	2	寝屋川二 (大阪)	シニア 寝屋川
13	捕	奥田 壮真	1	寝屋川十 (大阪)	シニア 寝屋川中央
14	内	西島 宗汰	2	立命館宇治	中学野球
15	内	梶井 恒希	2	枚方三 (大阪)	ヤング 枚方ヤングホークス
16	外	田口 紘靖	1	三好 (愛知)	ボーイズ 愛知長久手
17	外	大河内瞭介	2	京教大京都	ボーイズ 京都嵐山
18	投	篠原 輝成	1	飛鳥 (奈良)	中学野球
19	内	岸本健太郎	2	桜井 (奈良)	シニア 橿原磯城
20	内	岩間倫太郎	1	成和	シニア 京都丹後

2020年8月度のトピックス

8月25日

半年ぶりにアスリート食・補食が復活



2月からコロナの影響で休止していたアスリート食と補食が、この日から復活した。アスリート食は毎週火曜日と木曜日。生協が準備してくれたおかげで、白米を目一杯食べる。硬式野球部員は指定された教室で、ただひたすらに白米を食べる。初めての1年生は「おかげとのバランスを考えないと、最後は白米との戦いになる」と。

補食は夕刻の練習前におにぎりを食べる。グラウンド近くのスーパーにおにぎり2個とおかげのパックを取りに行き、それを食べてからの練習となる。

西田部長は月に一度全部員に体重を報告させており、これを機会にさらに「食」への意識を高めて欲しい。

8月23日

大学1.2回生OBが三室戸で胸を貸す



この日は立命館大学硬式野球部がOFFであり、里井監督の依頼で、1.2. 回生世代が三室戸に集結し、高校生に胸を貸した。間近に大学生のプレーを肌で感じられる付属校ならではの取り組みである。準硬式野球部で頑張るOBに大学で硬式野球を続ける3年生数名が加わり、秋季大会に向けて、現段階でAチームと目されるメンバーと9イニング戦った。

単に技術だけでなく、元気のいいメリハリのある声の掛け合いなど、高校生には全てが勉強となる。昨夏のエース高木OBや一昨年夏のエース西成OBの投球に果敢に挑んだ。

8月22日

顧問で全部員の夏休み課題を総チェック



この日はクラブ内での夏休み宿題提出の日。全部員がこの間取り組んできた課題をビニル袋に入れて、審判控え室へ持参。3人の顧問からチェックを受けた。点検しやすいように、あらかじめいくつかの提出ルールが定められており、点検済みのものから顧問印を押されて返却された。

里井監督から「今年は宿題完成に向けて、終盤はかなり練習時間を譲歩した」と言われるように、さすがにこの日に未完成の部員は出なかったが、課題

一つとっても、その完成度から部員の勉学に対する姿勢は見て取れる。丁寧な仕上がり具合の部員は学習成績も優れ、野球に対する姿勢も貪欲で謙虚である。

8月18日

わかさスタジアムで貴重な経験を



この日は夕刻からの立命館メモリアル試合を前に、朝からわかさスタジアムで、奈良大付属と立命館との変則ダブルが行われた。春季大会が中止となり、夏季大会も3年生のみで戦ったため、現役部員は初めてわかさスタジアムでの試合となった。

この球場で試合することが最終目標ではないが、ここでの戦いが大舞台へのステップとなる。グラウンドの広さのみならず、スタンドや更衣室まで、この日の経験が貴重なものとなってくれば、実りの大きい一日となるはずだ。

8月17日

夏休み宿題追い込みに、最後の檄



ここ数年、夏休み終盤の顧問による夏休みの宿題点検は恒例になっており、今年も部員が目にするホワイトボードに朱色で「※宿題」と明記されている。ところが何人かの2年生に進捗具合を尋ねてみると、「まだ半分にも達していない」と。どうも、宿題点検の意味がわかっていないのか、のんびりムード。この間、宿題をやるためのOFFは明確に示し、練習も早い目に切り上げる日もあったが、最終点検日に完成していないと、それ以降はクラブ停止、メンバー外へという「伝統」は上級生やレギュラーは別格と勘違いしているのか。

この日は練習が休みだったが、全員を学校へ登校させ、西田部長の監視の下、4教室に分かれて宿題に取り組ませた。この取り組み次第で、秋のメンバーに変動があることは、スタッフも覚悟の上なのだが、例年よりかなり少なめの宿題もできないようなら、野球を続ける価値はない。

8月10日

今夏の練習試合、例年とは様変わり



この夏休みの練習試合が例年とは様変わりしている。コロナの影響で、京都府立学校や多くの私学が他府県との練習試合を禁止しているため、急遽、府内の学校との試合が増えた。また他府県からの遠征はキャンセルが多く、当初の予定とは半数以上が変更になった。

全ての試合をフルメンバーで戦うことはせず、猛暑との兼ね合いもあって、しっかりと棲み分けして試合を行っている。若いスタッフが増えたこともあり、B戦も多い。例年になく、多くの部員に出場機会が与えられているが、まずは目標はポジション争いに勝ち残ること。里井監督からは「自分の長所は何か、試合でアピールせよ」と檄が飛んでる。

8月3日

アウェイの試合、移動の人数が限界に



この日のアウェイの練習試合は1.2年全員で大型バスで移動した。部員は54名で、スタッフを加えると、60人乗りの乗車人数は限界であった。

卯瀧監督時代は「見るのも勉強」と新入部員も含めて、練習試合の出かけるのが常であったが、顧問・コーチに若いスタッフが増えたこともあり、これからアウェイの試合は人数を絞り込み、残ったメンバーは三室戸でB戦または練習としなければならない。

この日は第1. 2試合のベンチ入りを大幅に入れ替え、ベンチ外メンバーは球場周辺で、西田部長の指導の下、トレーニングを行い、昼休みを利用して、シートノックをさせていただいた。

8月3日

兄弟校・立命館守山に胸を借りる



兄弟校の立命館守山と練習試合を行った。学校近くの守山市民球場でのダブルヘッダーであったが、近畿大会に出場した旧チームからのメンバーが多数残っており、全て入れ替えの立命館宇治は胸を借りる立場。

立派な球場は学校のすぐ近くにあるが、市民球場のため、平日でも使えるのは週2回程度とか。冬には全く使えない時期もあり、条件的にはかなり厳しい環境ながら、急速に力をつけてきた兄弟校から、学ぶことは多い。

監督は宇治OBで、大学では里井監督の2年先輩にあたる秋武祥仁氏で、HPでも紹介したように、豊かな経験がチームに浸透しつつある。

8月2日

投手陣を専門に指導、非常勤コーチ



投手陣を指導するのは後藤洋孝氏。愛知県の東邦高校出身で、名古屋経済大学硬式野球部から、独立リーグ・徳島インディゴソックスでも活躍し、現在はパーソナルトレーナーとして活動している。高校卒業時に115km/hから確実に球速が上がる方法を模索し、140km/hを達成し、さらに知識を増やすためにトレーナーとなった。数多くの選手の指導にあたり、現東京ヤクルトスワローズの中尾投手のサポートも行った。

冬に一度グラウンドで投手を見て貰ったが、そのアプローチに投手陣がすっかり引き込まれ、コロナ期間中はZoomで投手ミーティングも開いてもらった。

月に2回程度を目処に、正式に投手の指導をお願いすることになった。

8月2日

3年生が集合し、新チームに胸を貸す



夏季ブロック大会を終えた3年生がグラウンドに集まり、後輩たちに胸を貸した。どのチームも同じかもしれないが、春季大会が中止となり、夏季大会を3年生のみで戦ったため、新チームには公式戦経験者がいない。練習試合で経験を積むしかないが、練習試合だと重要な伝達があったも、試合を止めるわけにはいかない。この日はシート打撃形式で、7イニング行い、里井監督の様々な確認事項を全体に伝えながら、進行した。

3年生は例年ならお盆前後から海外研修旅行に出るが、今年は中止。またお盆過ぎにはわかさスタジアムで立命館とのメモリアルゲームも控えており、定期的にグラウンドに集まり、短時間練習を継続することになっている。

2020年7月度のトピックス

7月28日

新幹部も決まり、翌日から本格始動



夏季ブロック大会も終わり、1.2年55名の新チームがスタートした。人数は近年で最も多い。臨時休校明けからは、練習試合は1.2年のみで行っているが、春季大会も中止だったため、ほとんど公式戦の経験がないゼロからのスタートである。

新幹部は次の通り。

【主 将】 野寺 快（精華西中/滋賀南郷ボーイズ）

【副主将】 荻野 仁（南陵中/福知山ボーイズ）

【副主将】 岸本健太郎（桜井中/橿原磯城シニア）

【主 務】 古寺 大輔（大江/舞鶴ボーイズ）

7月17日

1年生には憧れの人?? 昨夏エースが指導



大学1年生で、昨夏のエース高木OBが三室戸へ練習に訪れた。1年生にとっては、昨夏の甲子園でテレビで見た憧れの人かもしれない。里井監督は早速1.2年投手陣を集め、キャッチボールから見学させた。

高木自身も入部した頃に、大学のエースであった山上OB(現日本新薬)のキャッチボールを見て衝撃を受けたという。

その後も変化球の握りや腕の振りなど、自らの経験を踏まえて後輩にアドバイスを送った。

7月17日

1.2年生のヘルメットが個人持ちに



今までチームグッズのひとつであったヘルメットが、1.2年から個人グッズとなった。耐用年数は3年とされており、これからは入部と同時に購入し、卒業の際には記念として持って出るのが基本。

昨今の状況を考えて、ヘルメットも使用後は消毒対象だが、個人持ちだと自己責任となり、大切に使用するはずだ。後頭部には通し番号が貼り付けてあり、その番号を3年間使用することになる。

後は部室内に保管場所を確保しなければならない

が、とりあえず新チームまで各自がいったん自宅へ持ち帰ることになった。

7月5日

3年生の思いに応えて、1.2年のB戦本格化



3年生の夏季大会が間近に控えているが、練習そのものは3年生が「続く後輩たちのために」と後輩のコーチ指導役を買って出ている。自らの練習を最小限に抑え、後輩たちには秋季大会で勝ち上がって貰いたいという思いからである。

その思いに応えるべく、1.2年生のB戦が始まった。練習では一定の成長は見せているが、実戦になると、ミスの連発。山内コーチからは「基本のキャッチボールが出来ていないから」と指摘されたが、サインの見落としも多々あり、ベンチの西田部長も「B戦はストレスが溜まるだけ。まだまだ鍛えなければ話にならない」と、試合後に早速練習を始めた。

7月4日

夏季大会に向けて、保護者会主催激励会



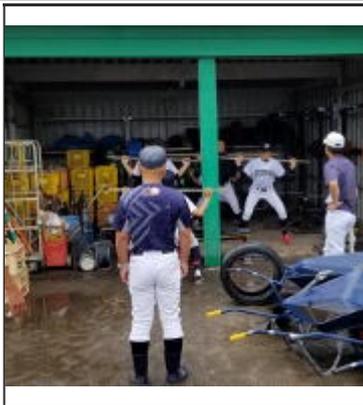
来週から始まる夏季京都府高等学校野球大会に向けて、今年も室内練習場で、保護者会主催の激励会が行われた。

本来は練習試合後の夕刻に行われる予定であったが、雨のために試合は中止となり、急遽正午開催となったが、多くの保護者が激励のために集まった。

この間、保護者が丹精込めて制作した千羽鶴や、お守り、記念タオルが部員に贈呈され、岡田主将が「3年生全員で感謝の気持ちを忘れずに、野球を一杯楽しみたい」と決意表明した。

7月4日

「密」にならないように、学年別時差練習



この日は3年生はアウェイで、1.2年生はホームでの練習試合の予定であったが、昨日来の雨で、早々に中止が決定した。急遽、練習となったが、3学年80名の部員が練習するスペースはなく、室内練習場をメインにしなが、雨がしのげる場所を探し、3学年時差で練習した。

倉庫では1年生が初めて、ウェイトトレーニングの指導を受けた。岩崎副部長から「大切なのは正しいフォームで行い、しっかりと呼吸すること」と説明があり、入念にフォームチェックを行った。

7月2日

大ホールで優勝旗返還セレモニー実施



第101回全国高等学校野球選手権京都大会優勝旗返還セレモニーが、16時から本校大ホールで行われた。

本来は第102回大会開会式で返還されるものだが、大会中止を受けて、京都府高野連会長、理事長、朝日新聞社京都総局長を迎え、部員80名を代表して、岡田蒼司主将が1年間本校にあった大旗を返還した。岡田主将は「主将になった時から1年後には開会式で自分が返すという思いはあったが、今日1.2年生部員は優勝旗を目の当たりにして、来年以降もこの優勝旗が学校に戻ってくるように頑張ってもらいたい」とコメントした。

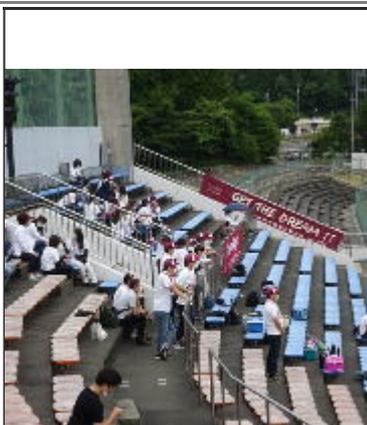
※式典に先立って、流されたビデオ映像

硬式野球部 TOP PAGEへ

2020年6月度のトピックス

6月27日

3年部員の保護者も気持ちよく「区切り」を



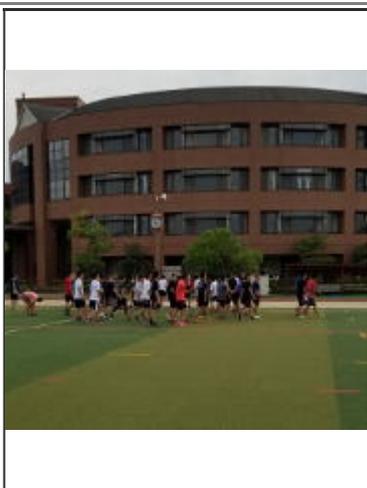
ある高校野球関係者が「3年生は代替大会で区切りをつけると同時に、保護者にも気持ちよく卒部していただく必要がある」と話されているのを耳にした。3年生の練習試合は再開されたが、全てアウェイであり、昨今の状況から、「来校は部員のみで、保護者をご遠慮下さい」という連絡が多々ある。

この日はあやべ球場での練習試合。保護者の観戦もOKで、多くの3年部員保護者がカメラ持参で集まった。

試合終了後にはグラウンド内に降りていただき、全員集合写真の撮影も行われた。練習試合はまだ続くが、保護者が観戦に来れる試合は限られている。

6月22日

朝練も再開、1年部員が初参加



2週間の時差登校・短縮授業期間を経て、今週から通常授業となった。クラブ活動も2時間制限がなくなり、今日から通常活動になるが、朝練も同時に再開された。

この日は前日試合であった3年生を除き、1、2年生のみで実施されたが、1年生は先輩から伝え聞く、ハードメニューに緊張の雰囲気。恒例の400メートルトラックを使った長距離走から始まったが、最後は上位3人までを1年生が独占し、2年生を圧倒。しかしトレーニングメニューでは1年生が悶絶の表情を浮かべ中、やはり2年生がメニューをハイスピードでこなし、貫禄を見せつけた。

6月20日

3年生26名のみで練習試合が再開



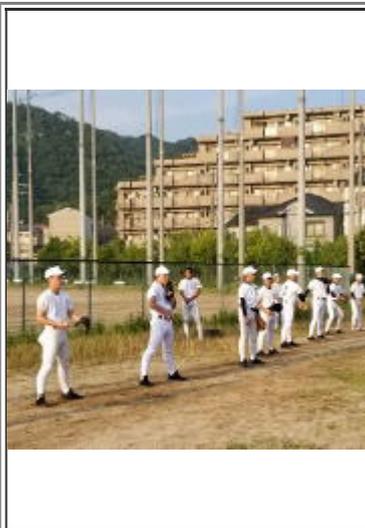
クラブ活動が再開されて2週間になる3年生のみで、今シーズン初の練習試合が行われた。昨秋の近畿大会出場校の東山に胸を借りての7イニング制の2試合。

3年生の代替大会まで数試合しかない状況で、ある程度「勝負を度外視」してでも、全員を出場させてやりたいという気持ちと、勝負には負けたくないという気持ちが入り交じる。

まだまだ「個」での闘いで、「チーム」としての闘いには至っておらず、投手がしっかり投げないと乱打戦になるが、3年生の練習試合は数試合であり、26名の3年生から、ベンチ入り20名を選ばなければならない。

6月15日

全学年揃い、三室戸で2時間練習



今日から「2時間限定」ではあるが、クラブ活動が再開となった。1年生は練習初参加で、3学年80名が勢揃いした。

大学1回生の高木、森本両OBも参加し、保護者の見学や1塁側の土手にはサポーターの姿もあった。

3年は一足先に活動を始めており、夏季大会に向けて、シート打撃を行うなど、徐々に実践モードに。1年生は例年なら春休みに行っているウォーミングアップやスナップスローから。「三密」は避けなければならないが、練習密度は濃いものが求められる。気持ちはわかるが、早くも居残り練習をしようとする部員がおり、スタッフが「当面は我慢せよ」と帰宅を即した。

6月9日

代替大会に向けて、段階的に活動再開



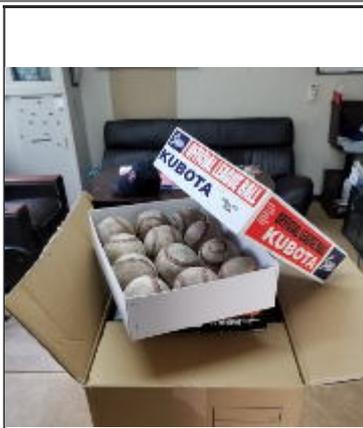
先の京都府高野連からの代替大会開催発表を受けて、活動が再開された。学校としての再開予定は15日(月)であるが、来月11日からの開幕を前提に、3年生26名のみ、2時間限定での練習が始まった。

この休止期間にしっかりと身体を動かしてきた成果を早くも発揮し、ロングティーでも鋭い打球を飛ばす部員が目立った。Zoom会議での監督からの指示通り、全員がきれいに丸刈りし、初夏の太陽に気持ちよく汗を流した。明日から梅雨入りが予報されているためか、岡田主将も「少し飛ばしすぎたかも」と。

ここからは最後まで高校野球をやりきったと言える自身のプライドとの勝負である。

6月8日

OB在籍の社会人野球チームから激励



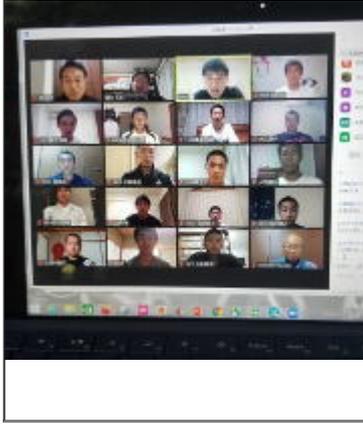
現在、掲載中の『硬式野球部歴史館』の中で「LEGEND」で紹介した湯川OB、藤原OB、古川OBの在籍する社会人野球の強豪・大阪ガスから、立命館宇治硬式野球部へ激励のボールが届いた。ロストボール30ダースで合計360球。ロストボールとはいえ、高校野球なら十分にシート打撃で使用できる品質で、お礼のメッセージに対し、藤原OBからは「喜んでいただいて嬉しい限りです」と、古川OBからは大変な状況ですが、少しでもお役に立てれば」というコメントを頂きました。3名の中で唯一現役の古川OBはチームの副主将となって、チームを牽引しているとの情報も届いた。

[硬式野球部 TOP PAGE](#)へ

2020年5月度のトピックス

5月21日

夏中止を受けて、Zoomミーティングを実施



昨日の夏の選手権中止決定を受けて、全スタッフ・全部員参加によるZoomミーティングが行われた。

里井監督から全体へ向けて話あった後、3年生部員とスタッフだけになり、岡田主将、浅野副主将、細川主務と同級生に向けて、今の思いを語りかけたが、泣き出す部員も。「今はまだ気持ちの整理がつかない」のが正直なところであるが、まだ京都府としては代替案の模索が始まったばかりであり、岡田主将からは「立命館宇治の野球部は終わったわけではない。続く後輩に良い伝統を残さなければならない」という力強いメッセージも聞いた。

5月4日

スタッフが三室戸に集まり、グランドチェック



部員が最後に練習したのが4月2日。もう1ヶ月以上前のことである。グラウンドの状況が気になり、この日の午前中、スタッフが集まって、グランドその他のチェックを行った。

グラウンドはコンクリートのように固まり、雑草は伸びている。部室やスタッフルームの換気や清掃なども含めて分担し、1時間半ほど作業を行った。

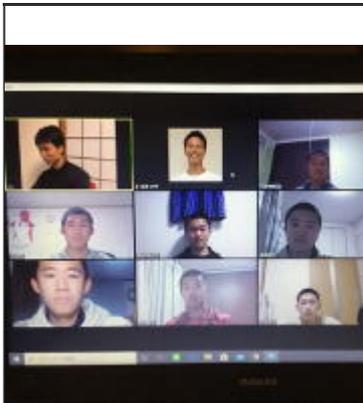
最後は3塁ベンチ内で距離を空けての昼食。近況を報告し合ったが、やはり話題は自然と部員のこと。「みんな各自で頑張ってくれていると願うのみ」が共通の思いであった。

硬式野球部 TOP PAGE^

2020年4月度のトピックス

4月21日

部員とスタッフ、アプリやZoomで遠隔レッスン



全国どこも同じ条件だが、部員たちの元気な姿が見られるようになるのはいつなのか、不安の日々であるが、そんな中でも何とか創意工夫して、アドバイスを送っている。新入生はまだ一度も全員集合していないが、入学式翌日にはLINEグループを作り、西田部長から動画を送り、その成果を動画撮影してもらい、LINEで確認している。また全学年にはNIKEランというアプリを使い、週単位でランニング距離を集約。昨夜は非常勤で投手のコーチをお願いしている後藤氏から投手陣がZoomでレッスンを受けた。

4月10日

大阪桐蔭で捕手、新就任の小林コーチ



写真は小林政喜コーチ。大阪交野ボーイズ出身で、大阪桐蔭高校では捕手。地元の精華西中学(保健体育と英語)で教壇に立ち、3年の浅野彰久副主将の中学時代の学年担任団の一人だったとか。
「どうしても高校野球の指導に携わりたい」と精華西中学校長に懇願し、4月より中学業務に支障がない範囲でという条件付きで許可がおりた。公務員のため、指導は全てボランティアとなるが、「わかりやすく丁寧な指導を心がけたい」と熱い。

4月10日

新顧問・矢野先生は京都外大西、投手出身



写真は矢野雅範先顧問。中学時代は京都ヴィクトリーズで、高校は京都外大西。
現役時代は投手で、自らの経験から「努力する姿勢と他人に対する思いやりを大切にすることであり、その中で野球を好きになり、次のステージで頑張ってもらいたい」と語り、その助けとなるように、自らの持っている知識や経験を還元していきたいとの抱負。国語科で生徒寮担当。

4月10日

今年度、硬式野球部スタッフが決定



今年度の校務編成の発表があり、硬式野球部のスタッフは以下ようになった。

部長 西田 透 (保健体育科/高校2年主任)

副部長 岩崎 善博 (保健体育科/高校1年担任)

顧問 石川 順久 (外国語科/寮運営部長)

顧問 矢野 雅範 (国語科/寮運営部) ※新任

監督 里井 祥吾 (立命館大学契約職員)

コーチ 山内 陵 (JR西日本/龍谷大OB)

コーチ 小林 政喜 (精華西中学/大阪桐蔭OB) ※

新任 ボランティア

トレーナー 渡辺 一貴 (ココロ整骨院/宇治OB)

※写真は昨夏の甲子園練習の時、左から里井監督、石川顧問、岩崎副部長、西田部長、中田前顧問、山内コーチ

硬式野球部 TOP PAGEへ

2020年3月度のトピックス

3月30日

40日ぶりに三室戸グラウンドに球音



新型コロナの影響で部活動停止が続いていたが、この日、40日ぶりにグラウンドへ集まり、活動が再開された。全面解禁ではなく、様々な約束ごともあり、まずはスタッフから部員に諸注意。時間が限られているため、全員が効率良く動けるメニューで昼前まで、久しぶりの感触を確かめた。

練習後は居残りは一切認められておらず、部員も大急ぎで帰路に。全部員の帰宅を確認して、スタッフで部室の消毒作業を行った。

3月20日

お世話になった先生方が離任



【Charles Fox校長】

2012年から8年間、本校で学校長を務められたCharles Fox校長が離任が発表された。

学生時代に野球とアメリカンフットボールを経験しており、着任してすぐに「スタンドで応援するのに部員と同じキャップがほしい」と言われ、わかさスタジアムや甲子園球場ではRマークの校長が見守って下さった。野球ファンだけでなく、一般の方々もスタンドでFox校長と記念撮影し、自らのインスタにアップする人も。

当初は日本の「野球」とアメリカの「ベースボール」の違いに驚かれたこともあり、昨夏も準決勝で高木が龍谷大平安に完投勝利を収めると、「これで明日の決勝は高木君の連投はないでしょ。君たちは誰を投げさせるの??」と言われたことも。

すっかり日本の高校野球ファンになり、「校長止めても、野球の試合には応援行くよ」と有り難いメッセージを頂いた。

【中田溪顧問】

2015年から2年間の非常勤講師を経て、17年から物理の常勤講師となり、硬式野球部の顧問としてお世話頂いた。3年間、生徒寮から通勤され、寮生部員は特にお世話になった。

もともと専門は陸上競技/やり投げだったが、三室戸グラウンドでは部員の基礎トレーニングに尽力。新型コロナの影響で、終業式もなく、クラブ活動が再開されない中、部員全員の前で挨拶していただく



機会もなく、心苦しいばかりだが、「昨夏の甲子園は一生の思い出」と語り、4月から京都市内の京都光華女子高校で勤務となる。

3月7日

異例の卒業式で、硬式野球部員が答辞



新型コロナの影響で臨時休校が続く中、卒業生と教職員のみで、異例の卒業式が行われた。通常の体育館ではなく、本校大ホールで行われたが、卒業生は一席ずつ間隔を空け、参加者全員がマスクを着用して、1時間弱に短縮された。

卒業生代表の答辞では、硬式野球部3年の柳原悠輝が、代表に選ばれ、3年間文武両道で頑張り、野球では甲子園出場という最高の結果を残せたと明快なメッセージを発した。

硬式野球部 TOP PAGEへ

2020年2月度のトピックス

2月23日

第101回大会出場記念プレート設置



第101回大会出場を記念するプレートが、23日に室内練習場に設置された。硬式野球部保護者会から贈られたもので、従来のセンバツ大会の3枚に続いて、4枚目となるプレートは、京都大会の勝ち上がりや、甲子園でのランニングスコアに加え、スタッフや73名全部員の名前が書かれている。

グラウンドを訪れた対戦相手校やファンから最も目立つ位置であり、立ち止まってじっと眺める姿は恒例となっている。

このプレートがさらに増えていくことを期待したい。

2月13日

高校入試の合格発表、28名が名乗り



高校入試の合格発表が行われ、即日、入部説明会が行われた。すでに推薦と一貫生で、26名はほぼ確定していたが、激戦の専願入試でさらに3名が合格。現段階で29名の入部が確定的である。

夏の甲子園出場で、認知度は上がったが、西田部長が本格的にリクルートした最初の学年で、近年では最も多い希望者だ。入学式以降に名乗り出る者もいるかもしれない。そうなれば過去最高の31名を超えるかもしれない。

2月11日

暖かい!! 早くもフリー打撃に紅白戦



例年にない暖冬である。まさに春を感じさせる陽気で、こうも暖かいと野球人の心は弾む。

例年なら、学年末テスト終了後から暖かい日を選んで行われるフリー打撃が、行われた。前日には短いイニングながら、紅白戦も。冬の間もしっかりとバットを振り込み、投手も投球練習を続けてきたので、特に問題はない。

特に2年生はこの冬の間、しっかりと食べて、トレーニングを続けてきたので、下半身が大きくなった。

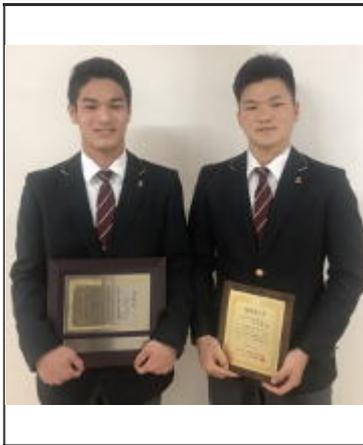
練習試合は来月8日からだが、楽しみである。

[硬式野球部 TOP PAGEへ](#)

2020年1月度のトピックス

1月17日

報告総会で部員二人が表彰



京都工学院高校で行われた連盟報告総会で、本校部員二人が表彰された。

ひとりめは日本学生野球協会から吉村仁。夏の甲子園出場の大きな牽引力となったことが評価され、京都府から1名選ばれた。本校では17年ぶり二人目となる。

もうひとりとは京都府高野連から高木要。夏の甲子園出場が評価された。本校では昨年の井上光志郎に続いて、2年連続9人目となる。

さらなる飛躍を期待したい。

1月12日

温かい!! 保護者会恒例の炊き出し



新年の恒例、保護者会主催の「炊き出し」が行われた。冬にグラウンドを訪れる機会が少なくなる保護者だが、この日は年始の挨拶を兼ね、ほぼ全家庭が集まり、昼休みに室内練習場で温かい食事が振る舞われた。近年は「うどん入り豚汁」「ぜんざい」だが、かつてはカレーやラーメンだったことも。

11時半から開始され、胃袋が温まった頃には、全部員による「今年の抱負」15秒スピーチ。「体重を増やしたい」から「日本一になりたい」と様々。

最後は西田部長、里井監督、岡田主将の謝辞で締めくくられた。

1月5日

決意も新たに新年の練習が再開



年末28日から新年4日までの年末年始休みが終了し、5日より通学可能な部員のみで練習が再開された。少し身体が大きくなった部員も。

全員が揃うのは始業式以降。明日6日には寮生が、そして海外へ里帰りしていたメンバーが3学期スタートには全員揃う予定。

1～2月は中学高校入試もあり、あっという間に時は流れる。焦ることなく、春に向けてしっかりと心身を鍛えたい。

1月5日

「OBの集い」LINEグループが急上昇



年末に行われたOB有志によるOB戦。「来年も是非。輪を広げたい」という声があった一方で、「夏のチケットが手に入らなかった」「寄付をどこにして良いのかわからず」という声が、スタッフにも届いた。

「とりあえずOB諸氏と現場現役の橋渡しとなれば」と石川顧問が、「今の若者はこの方がてっ取り早い」と『宇治・立命館宇治OBの集い』というLINEグループを立ち上げた。輪は一気に広がり、現在は300名を越える勢い。この中では、現役の予定・結果報告だけでなく、「恩師の近況」「甲子園PLAYBACK」など、OBが楽しめる内容を発信していく。

硬式野球部 TOP PAGE^